



第184号
令和8年2月1日
発行常民文化研究会

郵便振込口座
00280-9-12790

「クロス」とはギリシャ語 Xopos で英語 Chorus コーラスに当たります。ギリシャ悲劇では十数人の合唱団として、演劇の進行を説明し、時には民衆心を代弁する重要な役割を果すものです。私達の小さな心とこの会詩を「クロス」と名付けました。

入会受付について

入会は随時受付し希望者は、事務所に葉書にて、住所、氏名、電話番号を連絡の上、本会の郵便振込口座（〇〇二八〇一九一―二七九〇）一年会費一〇〇〇円を振込み下さい。

石鎚山と信仰

―忘れられた伊予の高嶺石鎚山―

〔石鎚講の成立と展開〕(2)

西海 賢二

〔四〕

松山市周辺のお山講を中心にみてきたが、ここでは松山周辺を中心とした「常夜燈」について紹介してみよう。

お山講で紹介した東温市の上村では、金石常夜燈の前で講行事が行われている。金石常夜燈は讃岐金毘羅大権現の「金」の文字と、石鎚大権現の「石」の文字を刻んだもので、森正史氏もこの金石常夜燈の分布や造立年代などについて調査されているが、全体的把握には至っていない。

昭和の末期、四国のみならず全国的にも庶民信仰の頂点に位置する金毘羅信仰の究明されるなかで、昭和五十四年五月二十一日付の官報告示をもって重要有形民俗文化財として指定された「金毘羅庶民信仰資料」一七二五点の資料集（重要有形民俗文化財金毘羅庶民信仰資料報告書）全三巻が東京

の日本観光文化研究所より上梓されたことは、金石常夜燈を調査する上でも指針となるであろう。全三巻の構成は、金刀比羅宮概説（金毘羅信仰について、金毘羅への道・金刀比羅宮の沿革・金刀比羅宮関係文献）、金毘羅庶民信仰資料第一篇（絵馬・船模型・流し樽と流し木・大漁旗・船舶・漁具・魚物・信仰の遺物・授けもの）、金毘羅庶民信仰資料第二篇（鳥居と注連柱・狛犬・玉垣石段と敷石・記念碑と標石）、金毘羅庶民信仰資料第三篇（六百余基の灯籠・高灯籠・燈明堂）などとなっている。

筆者が瀬戸内沿岸で確認した金石常夜燈は、金毘羅に比すれば僅かに百余其と少ないものの、とくに愛媛県・広島県下における金石常夜燈の行事は明らかに石鎚の信仰による期待の方が大である。金石常夜燈は愛媛県・広島県・香川県に多く散在しており、絶対数では愛媛県が九割強を占めている。なお、単独の石垣常夜燈も散見される。史料的位置づけ・分布造立年代の傾向はすでに指摘されているが、この金石常夜燈と石鎚信仰の内容については言及されていない。

そこで、金石常夜燈の造立年代や分布だけでなく常夜燈をめぐる祭祀の関係など、数例紹介してみよう。

常夜燈には「金毘羅・石鉄山」と刻まれたもの、それを省略した「金・石」と刻まれたものをはじめ、二字のほかに該地域の氏神や神社名を刻んだものがある。広島県竹原市周辺では「金毘羅大権現」「石鎚大権現」「大峯山」と刻まれた常夜燈もあり、香川県大川郡志度町（現・香川県さぬき市志度）では「石鎚山」と刻まれた三メートルを超えるという大型の常夜燈がある。

愛媛県東温市・松山市周辺の常夜燈についてみると、その特徴は、前掲したように石鎚独自の常夜燈は少なく、金毘羅や氏神・大峯山・宮嶋などと並列して刻まれており、石鎚信仰のみならず四国の民間信仰を知る上で興味深い。

ここで、近世中期以降、東予地方の人々がいかに瀬戸内沿岸の神社・仏閣や四国遍路に出ていたか、西条市小松町の「小松藩会所日記」より眺めてみよう。

「小松藩会所日記」は享保元年（一七二六）小松藩三代藩主一柳直卿から八代頼紹の慶